

新規採用、おめでとうございます。私は、山形村村長の百瀬です。今日は、皆さんの研修会で講話をすることになりました。テーマは「日本一明るく元気な村づくり」としましたが、山形村の紹介や首長としての考え方をお話ししたいと思います。よろしくお願ひします。

今日は山形村の職員も来ていますので、一緒に聞いていただきますが、山形の事を話しますので、他の市村の皆さんには自分の地域と比較したり、また置きかえたりして聞いてください。私は村長に就任して今年で3年目です。皆さんより2年ばかり先輩というようなことで、私の経験を話しますので、皆さんのこれからの職員生活の参考になれば幸いと思っています。

これは、自分も含め、公務員としての基本的な考え方です。いつも新入職員に話す言葉ですけれども、皆さんの使命は住民の奉仕者だということです。奉仕者ということは、公務員として常に、すべての住民の福祉の向上のため、地域の発展・向上に努めること。それには公正・公平な行政運営が必要になります。物事を決めていくときに、このようにやっていくためには、日ごろから遵法、法を守る訓練が必要になってきます。法律、条令、規則に従って仕事をやっていくということが公務員の仕事になりますので、仕事は訓練していただき、自分の養成力を高めていただきたいと思います。では、次をお願いします。

それでは、私の自己紹介をします。私は昭和24年生まれで、現在65歳です。私の信条は「我以外皆師」です。これは作家の吉川英治の言葉ですが、中学のときから好きになり、実践しています。「自分を取り巻くすべての人、物、事象が先生であり、私を育てているのである」と、このようなことです。私は昔から、お祭り幹事といいまして、人を集めることが好きでした。スポーツも文化も遊びも飲み会も、大勢の人を集めて楽しく過ごしてきました。今振り返りますと、すべてが私を育ててくれたと思っています。まさに「我以外皆師」のとおりでした。そのおかげで今があります。私を育てていただいたすべての皆さんに感謝するものです。

そして、モットーは「何事も明るく楽しく前向きに」と行動してきました。したがって、山形村の夢も「日本一明るく元気な村づくり」としました。私は民間の出身ですので、行政経験はありません。周りの市長、市村の先輩の首長に指導をいただき、頑張っています。職歴は、昭和43年4月、日立製作所に入りました。Uターンして現在の株式会社セイコーエプソンに入り、時計職人になり、平成21年に定年退職するまで、39年間お世話になりました。退職後は、長野県の外郭団体であります職業能力開発協会にお世話になり、平成24年、長野県がホスト県になりました技能五輪長野大会の開催のお手伝いし、退社したのち、平成25年3月に第43代28人めの山形村村長に就任しました。

私は、夢は実現すると思っていましたし、させようとして挑戦をしてきました。一例ですが、高校時代に私は友人とよく「南国の暖かい国に行きたいな」と夢を語ったことがあります。「あの南十字星の下、ヤシの木陰の白い砂浜で南国気分を味わおうじゃないか」と、そのようなことを熱く語ったことを思い出します。それが、エプソンに入り、私の担当す

る仕事がシンガポールに移管されることになりました。現地で3年間の赴任生活がありましたが、27歳のときです。まさに夢の実現です。仕事は、先日シンガポールの建国の父と言われたリー・クアンユー首相が亡くなりましたが、その首相が当時のセイコーエプソンの社長と、シンガポールのために新しいきれいな工場を作ると言った、その工場に行くことになったのです。その当時は、海外赴任などということは松本地区では例を見ないことなので、仕事と家庭を移動させることに随分と苦労しましたが、南国に行きたい夢は実現できますので、頑張りました。そのおかげで、海外はスイス、ヨーロッパ、アメリカ、中国、インド、東南アジアと11カ国に仕事で行くことができましたし、私の人生に大きな自信をいただきました。夢は描くこと、そして挑戦すること。挑戦することは、苦労しますけれども、楽しいことです。次をお願いします。

「私と政治」ということで。私たち首長は、常に自分の信条を持たなくてはなりません。行政の主人公は住民です。住民に対する気持ちは、常に感謝の気持ちと思っています。その心を私は三久、三つの久の心ということで、考えています。語呂合わせになりますけれども、サンキュー、感謝、三つの久です。一つは久は球のキュウです。丸くて、とげのない輪であります。人の輪を大切にしたい心です。二つのキュウは、数字の9。野球でもバレーでも、9人で、チームワークで戦うスポーツがあります。仕事もチームワークのよい人間関係を作りましょうと、そのような心です。三つのキュウは久遠の久です。久遠のキュウ。いつまでも継続すること。継続は力なりを実践しようとするものです。家族も友人も職員も住民も、すべて人に対する心構えを三久に託しました。これは自分を叱咤激励する気持ちの表れです。サンキュー、ありがたいとは、何事も、一緒に時間を共有したときに、そこに喜びや感動を抱く心の叫びです。人ばかりではありません。草や木や小鳥や猫が、心の癒やしや励みにもなっています。ありがとうございます。私も今日ここに、こうして皆さんに私の話ができる時間をいただいたことが感謝です。これは新しい出会いであり、発見です。次をお願いします。

今日いただきました貴重な時間ですが、たくさんお話ししたいことはありますけれども、いただいた時間は1時間ですので、何とか、50分ぐらいに挑戦し、10分ぐらいは質問をとりたいと思っています。細かく話をしていますと時間がオーバーしますので、27枚のシートを用意しましたが、5枚について特に強調しますので、私の65年の人生の、生き方のアドバイスと聞いてください。このシートはその一つです。要点は三つあります。一つめは、元気なあいさつ。すぐやること。記録すること。三つです。

元気にあいさつする。今、山形村では保育園や小学校、中学校、役場において、あいさつ運動を行っています。その中で一番褒められるのは、鉢盛中学校の生徒です。毎朝、元気なあいさつを聞いて、畑にいるおじいちゃん、おばあちゃんたちが校長先生に喜びの電話を、お礼の電話をするということで、鉢盛中学校の生徒は褒められていますけれども、比較的だめといわれているのが小学校と役場です。したがって、役場はあいさつしましょうと私は言っていますが、住民の皆さんから、役場のあいさつがないと言われま

すと、本当に悲しくなります。ところが先日、先輩から「いや、今年の新人はなかなかいいで」ということを言われまして、「いや、そうですか。ありがとうございます」と、そう言ってうれしくなりましたが、人によりけりですけれども、元気な声は相手に元気を与えるものです。また、自分も元気になります。ぜひ、皆さんも大きな声であいさつをしてください。

二つ目は、仕事はすぐやることです。役場の仕事は納期が見えません。民間の仕事はこの納期が命です。命ということは、高く売れる商品が安くなったり、新鮮な野菜がしなびてしまって価値が下がるということで、損をするということです。期限のある仕事をぐずぐずしてやっていると、納期に間に合わず、慌ててやるので、よい仕事できません。すぐやること。すぐやりますと時間的に余裕ができますので、結果が見え、修正ができるのです。特に皆さんは、これから何人の上司に仕事を命令されるかわかりませんが、厳しい上司は嫌われるのです。しかし、うるさい人は仕事ができる人です。嫌な上司ほど、すぐ仕事をするというのがコツです。社会的に、一般的には上司と仕事は選べません。皆さん、そうでしょう。社会の組織の中では、上司と仕事は選べないのです。したがって、自分が上司になるか、異動するか、辞めるかしない限り、上司と部下の関係です。しかし、上司は部下を使って仕事をするのが仕事なのです。したがって配属されたときに、人には好き嫌いがありますので、これは運命です。嫌な上司こそ、言われたらすぐにやり、その人の仕事の進め方を盗むことだと、このように思っています。早い仕事は多少のミスが出ては許されますが、遅い仕事はケチがつきます。私はいつも先へ先へと計画して、文句を言わせないようにしてきました。先ほどのシンガポール行きも、会社では経験がないので、誰も行く人がいませんでした。しかし私は夢の実現のために手を挙げ、会社にとっても私にとってもよい結果となり、感謝し、感謝される仕事ことができました。これはうれしいことでした。とにかくやってみる事です。

三つ目は、自分の仕事は記録してください。忘れないため、約束を守るため、そしてさらに自分の仕事を分析し、目的につなげるためです。今はどこでも、役所にはPCにスケジュール画面表があります。計画や実績は記録をする癖をつけてください。ここで私が皆さんに申し上げることは、あいさつをする、すぐやる、記録する、です。次をお願いします。

それでは、山形村の紹介に移ります。これは、1,300年の歴史を持つ、山形村の慈眼山清水寺の展望台から見た眺望です。山形村に向かい、ここが役場ですけれども、この一円のこのあたりです。松本市に向かい、このぐらいの小さな村ですということです。この景色を見て、山形村の元気を皆さんに持って行ってもらいたいと、このように思います。ここは京都の清水寺より古いと言われていています。伝承ですけれども、1,300年が山形村の清水寺。京都の清水寺は1,200年前に建てられたということをいっています。1年の世相を漢字で表す森神主さんも、今年も3年連続で山形に来られます。私は皆さんに、今日の仲間同期会を作り、古刹清水寺の観音様に参拝してから、山形村唯一の宿泊施設ですスカ

イランドきよみずに宿泊し、交流会をしてほしいと思います。

次、言葉編で紹介しますと、このとおりですので、長野県で面積が一番コンパクトな村と覚えてください。次をお願いします。

これは読みませんけれども、財政が非常に健全であるということを紹介しています。山形村は知らなくても、アイシティ 21 は有名です。アイシティ 21 には映画館があります。「映画館がある村は山形村だけだ」と宣伝しています。

これは山形村の人口の推移ですけれども、山形村の第5次基本計画では人口を9,000人を目標としましたけれども、現在は8,776人となっています。国の人口減少に対するまち・ひと・しごと創生総合戦略を検討していますけれども、確実に人口は減少します。したがって、将来山形村は9,000人にはならないと思います。対策としては「住みやすい、住んでよかった、よい村を作っていこう」という計画を立てています。次をお願いします。

そして、山形村は松本山雅FCのホームタウンがありますので、松本山雅を応援しています。先ほども申し上げてきましたが、私は常に「夢は実現する」と子供たちに言ってきましたが、先日、松本山雅が50年の時間をかけてJ1への夢を実現しました。夢は大事です。夢を追いかけることが必要です。夢を持たなければ実現できません。大きな夢を持つと時間がかかりますので、私が3番めに申し上げた久と、継続が必要となってきます。私は首長として、「松本山雅は、J1でまず1勝しろ」とエールを送っていましたが、もう1勝しましたので、次の目標は「ホームで1勝」と変えて、今、応援しています。次をお願いします。

そこで、山形の夢、ビジョンを考えました。山形村は、平成の大合併のときに自立を選択し、自立で繁栄を決めました。私はこの精神を継続していきます。山形村は昨年、開村140周年の節目の年でした。次の150周年を目指して、山形村の元気で日本一に挑戦することにしました。次をお願いします。

そして、山形村の目標を、「日本一明るく元気な村づくり」に決め、行動のモットーを「明るく楽しく前向きに」に追加し、常に前進、一歩からというように動き出しましたけれども、何をやるか明確でないということになりまして、特に健康づくりということをテーマに挙げてきました。山形村もけっこう、長寿の村ですので、健康寿命延伸の村づくりの日本一を目指す活動として計画を立てています。次をお願いします。

そこで、山形村を元気にするシナリオですが、村を元気にするには、村の職員のいる庁舎が元気にならなくてはなりません。したがって、新人の皆さんには期待をします。皆さんの元気が村民を元気にしていきます。山形村は村民一人一人が元気になれば、必ず元気な村になると確信しています。住民に期待することは、身近な区を元気にして、村全体に元気を発信することです。一人一人がその気になって行動を起こしていただくことが重要なものですから、その支援をしています。昨年、神城断層地震で「白馬の奇跡」という話が話題になりました。そのような地域での絆づくりの支援をしていきます。それは、「やってよかった、ありがとう」の世界です。次をお願いします。

そこで、元気の定義を決めました。「元気とは目標、目的を持って前に進むこと」ということにしました。前に進めば、よくても悪くても、結果が出ます。結果が出ると、次の目標が浮かんできます。また、やろうという考えが、またその行動を起こすという気持ちになりますけれども、この気持ちが元気だと。したがって、何かをやって動こうとする、これを元気というように定義しました。次をお願いします。

そこで私は 10 年先の行動ビジョンを出しましたが、主人公の住民が望む山形村の姿がどうかということ、アンケートをとって確認しました。そうしますと、これは満足度です。満足度（不明）です。重要度、それから不満足、それから村の魅力ですね。このようなことで出てくるのですが、実際に将来どのようなことを望むかといいますと、健康福祉の村、快適住環境の村、田園空間の村、このような村を作れと、このように住民の皆さんは言っていますので、そのような住民の気持ちを理解し、夢のある行政を運営したいと、このように考えています。次をお願いします。

山形村のその将来の姿を実現するためには、このような重点施策を考えるわけです。これは読みませんけれども、このような項目の具体的な施策につきましては、各担当課が実施項目に従って予算をつけて実施します。

山形村は今年 27 年度、当初予算は 34 億 8,900 万円を盛り込みました。村長は「この仕事は、この予算は住民の声が届いているか。今できないから、来年にするか。地域づくりの住民の意見はどうなのか」と、そのようなことを判断し、決めることが仕事ですが、この仕事の実際一つ一つは、皆さんたちがそれぞれ命令されて行うことになります。仕事の基本は、まず命令された仕事を覚え、正確に無駄なく、そしてこの結果を記録するということです。次をお願いします。

さて、これは二つ目に皆さんに参考にしていただきたいと思いますが、これは私の今までやってきました仕事のマネジメントです。ぜひ、人生の生き方として参考にしてください。世の中には利口な人がいまして、何かにつけて悪いところを指摘する人がいます。それも受け入れますが、私は一貫して部下の指導も、仕事の結果も、よさの発見を仕事のツールとしてきました。人にはそれぞれ個性があり、能力が違うのですから、一から十まで教えても、100%できることを期待しても難しいのです。ですから、できたこと、できないこと、良かったこと、悪かったこと、そして一歩進んだこととを拾い上げ、部下の能力を確認して伸ばすことが大事としてきました。誰でもできないことを言われるより、少しでもできたことを褒められた方が気持ちがよいと思います。

私がエプソンを退社して担当した技能五輪の選手育成は、そのやる気を出させる連続でした。金メダルという高い目標は、一つ一つの仕事のよさと成果の積み重ねです。私はエプソン時代に、腕時計の組み立てで世界一の金メダリストの部下を 4 人持っていましたので、このメンバーの力をかり、新人の教育を徹底して行いました。

平成 24 年の長野大会に時計修理部門で金メダルをとらせましたが、まさに集中力とわざの極限への挑戦でした。この教育を担当したメンバーは、全員が技能指導の評価として、

社会貢献で、職人としては最高峰であると、天皇陛下から黄綬褒章を受けました。私も 22 年に知事表彰の「信州の名工」をいただきましたけれども、公務員には地方公務員という資格と、それから技術職である国家資格以外に、目立った表彰の話を聞かないものですから、「まあ、長い行政の歴史の中で、住民の手前、気を使ってくれた」と思いましたが、優秀な職員は表彰したいと思っています。問題は、住民から見た公平と公正な表彰基準ですけれども、このようなものを考え、頑張る職員は表彰を考えてもいいのではないかと考えています。

ここで私が言いたいことは、教えてもらうことも大事ですけども、自分から学ぶことです。それは、三考という言葉がありますが、人のよさをいただき、自分の仕事をするとは、2 倍の速さと正確さがついてくるのです。三考という字をよく見てくださいね。三つ考えると書きますね。三つ考える、これが三考ですよ。したがって、他人の三つの考えを自分にすることが三考なのです。まねをするわけではありません。よさの水平展開です。素直に受け、自分のものにしていくことが成長の速い方法です。次をお願いします。

そこで、山形村は 1 村では発展できませんので、松本には松本広域連合という組織があります。松本広域連合は松本市長の菅谷さんを連合長にして、このような仲間があるわけですけども、山形村も仲間に入れていただき、いろいろ参考にさせていただいています。次に行きましょう。

これは松本広域での連合の仕事ですけども、このような仕事があります。松本市、塩尻市、朝日村、山形村で組織する広域連合の組合。それから、これは安曇野松塩筑、東筑摩ですね、広域の火葬施設ですけども、これは松塩、松本、塩尻、安曇、東筑の老人福祉施設ですね。ここは松本木曾、東筑摩郡、つまり木曾ですね。松本松塩筑木曾老人福祉、特別老人ホームという、このような組織の中で、いろいろと係っているわけですけども、これは小さな村にとりましては、一緒に協力していただくことは本当に感謝する仕事だということで、広域の仕事は「このような仕事をしていますよ」という理解をしてください。次、行きましょう。

これは松塩筑広域施設組合というところの仕事の話ですが、ここでの仕事は松本クリーンセンターで、松本市と塩尻市と朝日村、山形村のごみの焼却をしています。ごみは重さで使用料金を払いますので、ごみの中でも、生ごみが水分を多く含んでいるのです。重量がかさみ、たくさんの料金を払わなければなりません。そこで、松本市は考えました。飲み会の席で生ごみを減らすために、30・10 運動を始めました。これは初めの 30 分はしっかり食べて、それから立って交流会をしたあと、終わりの 10 分はもう自分の席に戻り、しっかり食べ残しをなくし、それからお開きにするという運動です。30・10 運動ということで作ったのです。この話を山形村では村議会議員の人が聞いてきて、議会を通して話題になり、「このコースターを作って、山形村も生ごみ減量活動を始めよう」と、このような活動になりました。これがさきに話をした、よさの水平展開のよいことです。よいことは住民サービスの向上のため、どんどん取り入れましょうという話です。次、お

願います。

このシートは私がぜひ皆さんに伝えたいことですが、皆さんは新職員として採用され、何もない定年退職まで職員です。山形村は、新入社員で入社しまして、今度は主任・主査、そして係長、係長補佐、課長と、このような仕組みになっており、課長になって定年を迎えるというように、過去からほとんどの人が課長になって辞められました。今年、課長が5人も退職になりましたので、ポストがあきました。一気に若返らせましたら、本人たちが不安になり、要するに課長になる心構えができていなかったのです。また、よく仕事を理解していないというようなこともありました。しかし、人はその役につくと、それともなしにきちんと成長していくものなのです。

私は「役は人を作る」と言ってきましたけれども、決まったわけではありませんが、役場の職員はおおむね3年をめぐりに配置転換が行われています。できることなら、皆さんも全員が課長を目指して頑張っていっていただきたいと思いますが、今の皆さんには自分の先が見えないと思いますけれども、年をかけました私は、過ぎてきた時間と経験で予測はつきます。あなたたちの先には、各庁舎の重責が待っています。どこの課につくかはわかりませんが、必ず待っています。職場のトップを目指すなら、一つでも多くの場所を経験して仕事を覚えていくことが大切です。大卒で定年まで、60歳までを考えたときに、38年間ありますが、その間どれだけの職場を経験できるか、考えてみたことはありますか。おおむね3年と考えますと、12から13の職場を渡ることになります。もし1箇所、5年か6年任されると、その箇所は減ってしまいますけれども、公務員として事務職の仕事をよく見ますと、仕事の仕組みは極端に変わっていないのです。したがって、私は「3年でプロになれ」と皆さんたちにアドバイスをします。しかし人事ですので、自分では思うようにいけません、どこに回されても、自信を持って仕事ができれば最高です。そのためには、仕事の仕組みを自分の体で覚えることが大事です。市役所の場合は、部長までの道がありますが、町村は課長まで、課長がその部門の長になります。最初の3年間をしっかり務めれば、2回、3回と回るうちに確実に仕組みは覚えられると私は思っています。自分の将来設計を考えてください。

また、県や国、広域というような、庁舎内で研修に出ることも大切だと思っています。いろいろな関係部門の人とネットワークができ、情報の収集が自分や庁舎を大きくすると私は思っています。私の経験から、積極的に研修に出したいなと思っています。私は、最初に東京に行ったのは、「信州に住んでいて、ここだけだったら、もう信州だけしか知らないから、やっぱり日本を知って、日本で生きていきたいな」ということで東京へ出たわけですが、3年してUターンして帰ってきてから、シンガポールをはじめ海外へ出ていきますと、やはりグローバルに物が見られるようになると思いますか、何とか生きられるなという、このようになるということは、やはり視野が広がることです。したがって、機会がありましたら自分の庁舎だけではなく、いろいろなところに行った方がいいと思いますので、私も機会があれば部下は外に出したいと思っています。次、願います。

これは私が1年かけて体験した、山形村の行政の1年の仕事です。私は行政がまったく素人だったものですから、1年間は村長職を覚える仕事をさせてもらいたいということで、365日に挑戦しました。どこの課も同じと思いますが、この山形村は第5次山形村総合計画として10年サイクルの計画が一番上にあるのです。それが基本構想前期基本計画、基本構想後期基本計画と、5年に分かれてやるような話です。この計画は10年の長期計画と、3から5年の中期計画と、そして1年間の短期計画というものがあるのです。1年間のサイクルを見てみますと、だいたいカレンダーでいきまして、1月には次の年の予算が作成され、2月に査定を行います。このときに、さっき言った、私が村長として「これがいいか、悪いか」「いや、もっとこういうふうにやった方がいいんじゃないか」「こういう事業をやれ」などということをするのですが、このような形で仕事が決まりますと、3月に議会で承認されます。そして、4月からずっと、その新しい年の事業が執行されていくわけです。その間に6月議会、9月の議会、12月の議会で、その計画がきちんと進んでいるか、チェックされます。議会は行政をチェックするということですが、議会と行政は車の両輪と同じように、村を成長させるための機能です。このような形で仕事が行われていきます。皆さんたちは、納めていただいた税金をその予算でどのように公平・公正に計画して使うかというところの担当なのです。したがって、1年の流れをよく覚えてくださいということをお願いしておきます。次をお願いします。

この組織は山形村の組織ですけれども、山形村は総務、税務、住民担当と、10の課がありまして運営されていますけれども、ここの仕事は先ほどの六つに分かれました事業を細かく、「私のところはこういうことをやりますよ」という形で決められているのですが、それに伴い、それを助けてくれる各委員会があります。これは、行政がきちんと遵法、法や条例に従って公平・公正に行われているかということをお手伝いしてくれる、いくつもの委員会があり、大勢の住民の皆さんと協働の村づくりをしています。その他に公民館事業とあり、スポーツや文化事業に、または情操教育や健康づくりに、いろいろな活動が行われています。したがって、ここで皆さんにアドバイスといいますが、参考にしてほしいことは、3年間でプロになるためには、1年めは現状把握です。「1年間どういう仕事やっていたか」ということを知る。2年めは、それを参考に、その内容に肉づけをしていきます。そして、3年めにその仕事を自分で理解し身につければ、事務職の仕事は、私はある程度できると思っていますが、そこは皆さんの、仕事にどのように取り組むかの意欲によってくると思っています。次の新しい職場に行っても、仕事の種類を覚えれば、そこでの仕事はどんどん広がるとしています。

私が言いますことは、一つの事業をするときに、まず企画をしますが、企画をするためにはお金がかかります。そのために見積もりをとるなど、その仕事を具体的に実行し、実績を得て、それにかかった費用と領収書をもらい、最後にまとめて報告するというところで仕事が終わるのですが、そのような仕組みのやり方は、どこの課に行っても予算を使う以上、必要になってくるということです。その仕事がきちんとできているかどうかについて



は、国の会計監査できちんとチェックされますので、そのとおり落ちがないようにやるための方法は、仕事においては変わっていないということを理解してください。どこの課に行っても、「どういうことをやっているのか。どれをどのような日程でやるのか。1年間を通したときにどういうふうにするか」と、このようなところに着目すると、その仕事は覚えられます。

さて、一応そのようなことで、仕事ができる人とは（人事で職場がどこに行くかわかりませんが）その仕事の仕組みをよく知っている人です。それから、人の使い方上手な人。あとは、太い人脈を持っている人。したがって、誰でも得手不得手はありますけれども、得意な分野を伸ばし、不得意な分野を補ってください。そのようにして仕事を覚えてください。次をお願いします。

さて、強調したい四つめのシートですけれども、私は行政の基本は安心・安全な村づくりだと思っています。安心な国、安心な社会、それから安心な家庭。すべて安心が前提だとあります。そこで、その安心については字を見てもらいますが、私は「安心は女性の力ででき上がっている」と言ってきました。今、います。京都清水寺の森貫主も「安心の安は安らぎである」と言っていますけれども、安らぎを与えるこの「安」の字をよく見てもらいたいと思いますが、これですね。これは「うち」ですよ、家。この下に女性がいます。したがって、私は昔、「女性は家の中にいて守っていく安、だから安心だ」と言われていたのですけれども、現在は「家を支えているのが女性である。国家を支えているのは女性である」と、このような解釈に変わってきたとお聞きしてきました。昔は役割分担として、男性が外で働き、女性が家を守る、これが安心だということで教わってきましたけれども、今の解釈はやはり違っているのですね。やはりこれは共同で支えていくことになるわけですが、中ではなくて、家を支えているのは女性だというように解釈しようということ。これは、字が急に変わったことではないものですから、昔からあったと思うのですけれども、昔の社会はどちらかというと男尊女卑の世界が強かったもので、当時の人たちの社会的観念がそうであったと想像はしていますが、その後、1986年に男女雇用均等法ができました。そして、最近では男女共同参画等の活動が非常に盛んになってきました。社会が女性力や女子力の向上を求めるようになったのです。

最近の国の動きを見ますと、2008年に、日本生産性本部というところがあるのですけれども、ここでワーキングウーマン・パワーアップ会議を発足させたのです。女性の能力をどんどん活用するような動きを始める。設立の趣旨が、50年後の日本の人口は3割減少し、生産人口は半分になってしまうと。この当時は女性が企業で働くなど、女性が直接仕事をするのが少なかったということもあり、企業も行政も、それが存続するためには、女性の能力を育成し、働く女性の登用を促し、応援・支援をする活動を起こそうと、このような動きが始まったのです。国の繁栄は女性の力が必要となる見解が示された活動というように私は認識しました。安らぎが女性によってもたらされるということは、このような現実は今も昔からあったと。今日も大勢の女性の皆さんがお越しですけれども、安心は女性

の力であるということで認識し、すべての活動に男女共同参画の推進を行ってほしいとお願い申し上げます。次、行きましょう。

そこで、安心な村づくりを支える福祉の構造を考えてみました。これは人の一生の行政ですけれども、誕生からエンディングまでですが、このうち誕生から自立までを育児・教育ということで、これは行政が支えます。それから、自立して世代交代するまでは、今まで社会にお世話になったお返しをしなければいけないと思い、奉仕をする時代ですけれども、ここから今度エンディングまでは介護・医療というような形で、また僕ら行政が応援をしていかなければいけないというようなことになっているわけですけれども、今この介護に、お金がかかり過ぎてしまい、またあと 10 年たちますと、私たちの年代が後期高齢者の社会に入ってくるのですけれども、そうしたときに、その面倒を見てくれる施設がない、お金がかかる、介護費用がかかるというようなことで、行政が全部を見きれなくなってくるのですね。そのようなことが想定されますので、今、山形村は人口減少のために、住んでよかった村づくりということで、一生懸命やっていますけれども、予算で言いますと 30%、約 10 億円をかけて福祉にお金を使っています。したがって、先ほど言いましたとおり、行政ではなかなか面倒が見切れない時代がやってくるということになりますと、皆さんたちに協力をお願いしなければいけないということになったときには、男女共同参画の力が必要になってくるわけです。村は健康寿命延伸の事業を展開して、できるだけ介護をされない、自立できる、自分で生きようとする元気を醸成して、一日でも長く生きてほしいと、そのような形で今、日本一長寿を目指そうという村づくりを進めています。次、行ってください。

これは、最終的には人材育成になります。私は「日本一明るく元気な村づくり」は、ふるさと山形村を愛する人づくりだと思っています。行政やスポーツ、文化、産業に 140 周年の歴史を刻んでくれた先人たちの思いをつないで、日本一に挑戦する若い人材を育てていくことが、これから山形村を継続させる大事なことだと思っています。これは別に山形村だけではなく、他の市町村もそうですし、日本も同じことです。スポーツや文化に、全国大会に出場する選手や団体には、山形では私の交際費から激励金を送って、頑張れと、このようなことをやっていますけれども、先日も全国大会に出場する報告会に来てくれた選手がいますけれども、その全国大会に出場するだけでも、他の子供たちに大きな夢を与えてくれると、うれしく思っています。次、行きましょう。

これは、強調する最後のシートですけれども、皆さんは庁舎で公務員として、仕事のおつき合いをする人は民間の人です。私は民間にいましたので、皆さんの仕事を民間の仕事と比較してみたのです。昔の孫子の『兵法』に「己を知り敵を知れば、百戦危うからず」という言葉がありますけれども、とにかくそのつもりで聞いてください。

仕事における一番大事なことは、皆さんたちの場合はこの遵法ですね。法を作り、法を守る、そのようなことが遵法ですけれども、民間は法を守り、その成長ですね。とにかく会社の利益を出していかなければ潰れてしまうのですから、とにかくそのようなことで成

長するというような仕組みになっているということです。お給料は、財源は税金で、皆さんの場合は払われますけれども、民間はその製品を売って自分で稼ぐ。適正の利潤が達成できなかった場合は勤務査定をされ、不安定な会社では昇給もない、賞与ももらえないというような状態ですけれども、最近、これはこれから皆さんたちも公務員として勤務査定が行われるようになってきますけれども、公務員は法によって守られているということを理解していただきたいと思っています。

下の方は省略しますが、住民は民間人であり、納税者です。皆さんが本当に望まれることは、住民サービスの向上であり、喜んでもらえること、感謝されることを望んでいます。これは、長野県の阿部知事の言葉ですけれども、今年の仕事始め、4月1日ですけれども、「皆さんたちの仕事をよく見たときに、庁舎の仕事、役人の仕事はお役所仕事と言われ、前例踏襲、要するに前のことをそのままやっていたらよいと、こういうふうに言われるんだけど、今はそうじゃない。常に変化を先どりし、仕事のあり方を改善し、新しいやり方を勉強していけ」というようなことを述べていました。これは民間の考え方と非常に同じで、大変前向きだなと思いましたけれども。また、いろいろな仕事をする中で、要するに自分の感性ですね、感性を高めるために共感力や、仕事を進める制作力、それから発信力など、このような能力をつけてくださいと言っていました。皆さんは直接住民の皆さんと接する機会が多い仕事ですので、元気よくあいさつをし、住民の皆さんの顔を覚え、そして何を求めるかをよく聞いて、それが住民の皆さんに感謝される仕事に変わるわけです。そのようなことをされることを私としては願っています。さて、では、終わりに行きましょう。

大変長い話をずっと聞いていますと疲れたと思いますけれども、皆さんたちに伝えること、しっかりと100%は伝わらなかったと思うのですが、何か一つ、これからの参考になればと思っています。皆さん、これから38年、40年ということで、地方公務員として就かれるわけですが、そのような中で自分の夢は、今からでも遅くありませんので、将来を見て自分の夢を描き、実現していただきたいと、このようなことを思います。皆さんが将来、期待される行政のプロとなることを本当にご祈念申し上げ、私の講演とさせていただきます。どうもご清聴ありがとうございました。